

リア大学のバリー・マーシャル先生が自ら菌を飲んで、胃炎が起きることを証明したことは大変有名です。菌と胃炎の関連に病理学者のロビン・ウォーレン博士が気付き、当時研修医だったマーシャル先生が実証したということです。

胃酸が分泌され、強酸状態が保たれている胃の中では普通の細菌は長く生息できません。胃炎の原因が細菌だとは、それまで誰も発想しなかつたのでしよう。ところが、ピロリ菌は、胃酸から胃壁を守るために分泌している中性の粘液の中に生息していたのです。ウォーレン先生とマーシャル先生はこの研究により、2

005年にノーベル生理学医学賞を受賞しました。

96年頃、マーシャル先生が仙台に講演に来られたことがあります。いわき市立常磐病院で内視鏡の研修を受けていた私は、担当の先生と車で3時間かけて、その講演を聞きに行きました。

ピロリ菌は通常子どもの頃に感染しま

すが、大人になって初めて感染すると激しい症状を起こすことがあります。当時は、内視鏡を簡単に洗うだけで次の人の検査に使っていたのですが、検査後に激しい胃の炎症が起きることがあり、これは内視鏡に付いたピロリ菌の感染が原因

だつたのかとはつとしました。
それまでは内視鏡検査で年配の方ほど胃の中が汚く見えるのを、老化のせいだと思っていました。しかし、年配でもピロリ菌に感染していない方の胃はきれいです。マーシャル先生の話で、初めて萎縮性胃炎の原因はピロリ菌だったということにも気が付いたのです。

06年にマーシャル先生が、東京に来られた時、直接、先生に留学のお願いをしました。私の向こうでの仕事は、世界各の人から届くピロリ菌に関するメールに答えることでした。除菌治療を何度も質問でしたが、検査やこれまで服用した薬などを聞き、検査や治療のアドバイスを先生に代わって送っていました。

――日本は先進国の中でもピロリ菌の感染率が高いと聞きましたが。

木村 ピロリ菌はほとんど10歳までに感染します。原因は衛生環境にあります。じつは私もピロリ菌に感染していたのですが、私の育ったところは宮城県の農村で、井戸水、食べ物、川での水浴などで感染したと思われます。現在では上下水道の整備に伴い、このような感染は少なり、母親から小児への感染がわずかに見られる程度になりました。



木村一史 先生／田村クリニック

(きむら・かずふみ) 福島県立医科大学卒。いわき市立常磐病院、ザンビア感染症プロジェクト、社会保険二本松病院、八潮中央総合病院、塩竈市立病院を経て、2008年4月よりバリー・マーシャル教授に師事し、ピロリ菌の疫学、治療を学ぶ。09年10月から田村クリニック勤務。同クリニック、南大沢メディカルプラザ、自由が丘メディカルプラザにて診療中(消化器・消化器内科)。

● 東京都多摩市落合1-32-1 多摩センターベリビル
☎ 042-356-0677、<http://www.tamuracrl.com/>